

2025
2.5 (水)12:10
12:50

12:10-12:15	◆ 演者紹介
12:15-12:40	◆ プレゼン
12:40-12:50	◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_y5gTRzZXQCyEzsvIAIzzGw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

キラルアミノ酸分析による バイオマーカーと機能性分子の探索



Key Words

キラルアミノ酸

診断

機能性食品

濱瀬 健司 教授

薬学研究院

1968年11月21日生まれ(大阪) 56才
1996年3月 東京大学大学院 薬学系研究科
博士課程 修了

職歴

1996年4月 九州大学薬学部 助手
(薬品分析化学分野)
2001年1月 九州大学大学院薬学研究院 助教授
(生体分析化学分野)
2016年6月 同 教授
(創薬育薬産学官連携分野)
2020年4月 同 副研究院長(政策・国際担当)

受賞歴

日本分析化学会奨励賞
(2003年9月、日本分析化学会)
日本薬学会奨励賞
(2006年3月、日本薬学会)
クロマトグラフィー科学会学会賞
(2019年12月、クロマトグラフィー科学会)
九州分析化学会賞
(2024年11月、日本分析化学会九州支部)

雑誌編集

Editor: Journal of Pharmaceutical and
Biomedical Analysis 誌
Vice Editor in Chief: Chromatography 誌
Editorial Board: Journal of Chromatography
B 誌
Editorial Board: Journal of Pharmaceutical
and Biomedical Analysis Open 誌

研究テーマ

「アミノ酸および関連化合物のキラル識別分析を切り口する創薬と診断の展開」

生体内の多くのアミノ酸は α 位の不斉炭素に起因してL型D型の鏡像異性体を有しており、これらのアミノ酸の光学識別分析は新たな生理機能分子、バイオマーカーの探索に有用である。特にD型のアミノ酸は、生体内に多量に存在するL-アミノ酸の対掌体であり、近年ヒトを含む哺乳類における生理活性や疾患との関連が明らかにされ、様々な実試料中での正確な分析が期待されている。本講演ではキラルアミノ酸分析法の開発並びに医療・食品分野などへの展開を紹介する。